OSAKA GAKUIN UNIVERSITY　OSAKA GAKUIN JUNIOR COLLEGE

International Center Newsletter

TAKING OFF

Vol. 4

発行日 2009年11月16日

大阪学院大学／大阪学院短期大学
国際センター　ニュースレター

1. 留学生＆ISST@岸辺祭　2009年10月23・24日

毎年10月下旬に本学キャンパスで開催される「岸辺祭」。今年は秋晴れの空の下、10月23日から25日の日程で開催されました。本年、国際センターは、世界各国から51名の留学生を迎えたこともあり、大学のイベントに参加する絶好のチャンスを活かさない手はないと、急遽「岸辺祭」参加を表明したところからスタートしました。模擬店の名前は「世界の屋台村」。今号では、留学生とボランティアOGU学生たち(ISST*)が岸辺祭までの約1ヶ月半をどのように取組んだか、そして岸辺祭での留学生とOGU学生がどのように活躍したかをレポートします。

9月初旬に日本に来たばかりの留学生たちがどこまでできるのか、ボランティア学生たちがどこまでサポートできるのか、手探りの中、準備が進みました。最初の2日間に模擬店を出店することになり、10月23日はアラスカからの留学生マット・フリール君、24日はフランスのISCIDからの留学生ベレニス・デスプレさんがリーダーとなり、準備を進めていったのですが、留学生とOGU学生の間のみならず、留学生同士にも言葉の壁が。最初はコミュニケーションのすれ違いなどもありましたが、少しずつそれぞれがコミュニケーションの方法を編み出し、日本語の上手い留学生、あるいは英語のできるOGU学生が間に入って話し合いが進められるようになりました。あちこちで中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、英語、日本語で話が盛り上がり、後は誰かが通訳して話を進める、まさに小さな国際会議。これこそ多言語・多文化の学生が集まっているからこそできる取組みです。

カイザーシュマーン(上)＆キムチチヂミ(下)

日が近づくにつれて、ポスターを作成する学生、実際に試食を作る学生、食材を買出しに行く学生、全体をまとめる学生など、それぞれが割振られた役割に没頭する日々が続きました。そして夜遅くまで1号館1階のラウンジには学生たちの声が絶えませんでした。

さて、当日を迎え、10月23日。この日のメニューは、中国の餃子、オーストリアのお菓子カイザーシュマーン（Kaiserschmarrn)、タピオカドリンク。餃子は中国人留学生たちが中心になり、約500個の餃子を売り切りました。カイザーシュマーンは最後まで本当にできるのかと心配しましたが、オーストリアからの学生二人が大活躍し、教室では見られないだろうと思われるぐらいの真剣な顔でがんばっていました。タピオカドリンクは、台湾からわざわざ本場のタピオカを送ってもらい、台湾人留学生が中心になって「パールミルクティー」を作りました。10月24日は、韓国のキムチチヂミ、フランスのクレープ、そして引き続きタピオカドリンク。チヂミは韓国人留学生たちが中心に、クレープはフランス人留学生たちが中心になり、見事に初日の倍の売り上げを記録しました。もちろんボランティアOGU学生たちは両日ともその中に混じり、細かいところをいろいろとサポートしてくれました。また、隣りのI-Chat Caféや白井ゼミのヨーヨー釣りにも留学生たちがお手伝いに行き、そこでも他のOGU学生に混じって一生懸命がんばっていました。普段お世話になっている先生方や、日常生活のサポートをしてくださっているホストファミリーの方々がブースに足を運んで食べ物を購入くださったこともあり、学生たちもより一層真剣に取り組んでいました。

模擬店での留学生たち

*ISST: International Students Support Team

“マカレナ（Macarena)”（スペインの曲）に合わせて踊る学生たち

今回は時間のない中にも、留学生とOGU学生が自分たちの力を存分に発揮し、岸辺祭を盛り上げてくれました。特に、岸辺祭の模擬店と言う一つの目標に向かって協力することで、留学生同士、また留学生とOGU学生の絆が深まり、これからも協力していろいろなことに挑戦していく基盤ができました。今回の岸辺祭は、キャンパス内の小さな異文化交流かもしれませんが、そこから一歩一歩キャンパスの国際化を推進し、ひいては学生たちの国際人としての資質を育てる国際交流プログラムへと発展していけるように国際センター一同さらなる努力を続けていきたいと思っています。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

目次:

留学生&ISST@岸辺祭　1
オランダ王国特集
派遣／受入れ留学生レポート　2-3
ホストファミリーの心がけ　4
日本語の先生紹介　4
国際センターニュース　4

2. ～オランダ王国特集～

チューリップと風車の国“オランダ”。東はドイツ、南はベルギーと国境を接し、北と西は北海に面しています。日本との関係は深く、オランダからもたらされた技術・学問は「蘭学」と呼ばれました。歴史の授業がよみがえってきませんか？2009年はなんと日蘭交流年周400年です。現在オランダにはOGUの提携大学としてHZ応用科学大学とフォンティス応用科学大学の2校があります。今号では、オランダへの短期/長期派遣留学生、オランダからの受入れ留学生のレポートを紹介します。

平成21年夏期海外研修レポート：フォンティス応用科学大学 “フェンロでの3週間”～中西　優理子（国際学部3年次生）

夏休みの約3週間、ドイツとの国境に近いオランダのフェンロという町に短期留学しました。海外経験は今までにもありましたが、1人で行った事もなく、ましてや留学生の中で日本人が1人という経験もなかったので初めはとても不安でした。

オランダに着いてからの1週間は、現在交換留学でOGUに来ているAnneとOliverがサポートしてくれ、フェンロの街やドイツの観光地に連れて行ってくれました。また一緒に遊園地に行ったり、Anneの友達と夜遅くまでカードゲームをしたりと毎日がとても楽しかったです。それでも、最初の頃は夜になるとホームシックになり、電話で家族の声を聞くと早く日本に帰りたいと思いましたが、家族からの励ましの言葉に残りの日々を充実したものにしようと前向きに思えるようになりました。

フェンロの町並み

2週間目からは、大学のサマースクールに入り、他の留学生たちと一緒に英語を学びました。そこで驚いたのはクラスの生徒も先生も全員ドイツ人だったということ。さらに授業の説明や話し合い、休み時間の雑談も全てドイツ語だったのです。ドイツ語は勉強したこともなく、英語も思うように話せなかったので、最初はとまどい、なかなか皆の輪の中に入っていけませんでした。そんな日が2、3日続きましたが、これでは留学に来ている意味がない、絶対に友達をつくりたいと思い、次の日から少しでも話しかけていこうと決め実行しました。みんなが何について話しているのか全く分からない中で、自分から話かけて行くのはとても勇気がいりましたが、「明日はあの子にも話しかけてみよう！」等と毎日ちょっとした目標を持って話しかけていくと、だんだんとクラスメートと打ち解けられるようになりました。今まで怖いイメージだった学生がとても面白くて優しかったり、こんな日本語を知っていると教えてくれる学生がいたりと新しい発見もありました。授業についていくのは大変でしたが、みんな冗談好きで、面白く、優しかったので、おかげで楽しく日々を過ごすことができました。また学校以外でも、予定のない休日には、自分の英語力を試してみようと、1人で街に出かけて買い物をしたり、カフェに入って店員さんとお喋りをしたりもしました。

Anne（右）と彼女の友達と一緒に

この留学を通して、私はいろいろな人と出会いました。最後にはクラスの中に仲の良い友達もでき、とても充実した語学留学でした。また、この留学で得た事は、英語はもちろんですが、何よりも“自信”だと思います。初めはどんな留学になるかと不安ばかりでしたが、友達ができたこと、初めて1人暮らしをしたこと、多くの出会いや発見ができたこと、どれもが私にとって“自信”につながりました。また、留学に行く前よりも少しですが自分から積極的に行動することができるようになれたのではないかと思います。

今は、これからもさらに英語を勉強し、いつかまたオランダやドイツに行きたいと思っています。

2009-2010交換留学生レポート：HZ応用科学大学 “英語漬けのオランダ生活”～藤間 浩之（外国語学部2年次生）

オランダにあるHZ応用科学大学に今年の9月から通い始めて、すでに1ヶ月半が経過しようとしています。今日は、僕が通う大学紹介とこの1ヶ月半の経験を皆さんにお伝えしたいと思います。

僕が大阪学院大学からこの大学への初の交換留学生で、事前の情報はほぼ皆無に等しく、確実な情報と言えば日本人がいないということだけでした。そして僕はこの時、勉強するのにこれ以上の環境はないと思い、日本語のない環境がいかに大変かも知らず、どうにかなると高をくくっていたのです。そこからスタートした僕の留学生活でした。

さて、まずはHZ応用科学大学があるのは、オランダの南にあるゼーラント州フリシンゲンと呼ばれる人口約45,000人の小さな街です。海が近く、貿易が盛んなので大きな貿易船が頻繁に往来しています。土地が海面よりも低くフラットで山がありません。そして街には近代的なビルが少なく、ヨーロッパならではのオレンジ屋根の町並みが広がっています。街の景色の中で、特に海に日が沈む光景が最高です。またオランダは自転車が普及しているので、自転車専用の道路や信号があります。皆ルールをしっかり守るので、たまに左側を通行しているとオランダ語で何か言われます。オランダといえばチューリップですが、実はチューリップよりも風車の方がたくさんあります。そして驚くことに子供からお年寄りまで、どんな人でもみんな英語が話せます。

小さい街で応用科学と聞いたら、ローカルで理系の大学かと思うかもしれませんが、実際は全く違います。フランス、ドイツ、スペイン、オーストリア、ルーマニア、ブルガリア、スイスをはじめとするヨーロッパ諸国のみならず、アメリカ、カナダ、メキシコ、オーストラリア、ケニア、韓国、中国といった世界各国から総勢400人の留学生が在籍し、科学だけでなくIBMS（インターナショナルビジネス）

現地の留学生と

や貿易と言った世の中の主流となるビジネスも学べる非常にインターナショナルな大学です。

僕は、8月28日にフリシンゲンに到着し、

ヨーロッパらしい夜のアムステルダム中央駅

いきなり、日本語なしの生活が始まりました。大学が始まるまでは去年HZから留学生として日本に来ていたシヴの家で3日間ほど過ごしました。その後寮へ移り、僕の留学生活が本格的にスタートしたのです。正直言うとそれは始まりから大変なものでした。ヨーロッパでは皆英語がペラペラで当然と言う前提の世界。高をくくっていた僕はペラペラペラペラと英語で喋りかけられても答えられず、自分の英語力のなさに絶望しました。滞在許可書などの手続きはもちろん全部英語で説明され、また日本からの初めての留学生だったからなのか、学校に登録されていないというトラブルもありました。何かあっても全部自分で動かなければいけなかったため、最初は本当に苦労しました。しかしそれを乗り越えた今は少しずつ英語も聞き取れるようになり、友達とパーティをしたり、たまにパブに行ってお酒を飲んだり、毎週土曜日は近くにあるサッカーフィールドで大学の友人やオランダの子供達とサッカーをしたりと楽しんでいます。また勉強面では毎回大量の宿題を与えられるので苦労しましたが、今ではそれも慣れ、来学期にはIBMSの授業履修を目指して、毎日勉強に励んでいます。そして年末年始はフランスのパリの友達の家に遊びに行く予定です！一日一日が飛ぶように過ぎていきますが、しっかり学んで、しっかり遊んで、後悔のない留学生活にしたいです！

2009-2010受入れ留学生の日本生活～Anne A. Van Overbrüggen

Anneはオランダのフォンティス応用科学大学からの留学生です。オランダの大学に通っていますが、国籍はドイツです。今年度、フォンティス応用科学大学から来ている4名の留学生は、全員ドイツ人です。やはり国境に近い大学でもあり、EU圏内は移動しやすいからでしょうか。彼女は中西さんのレポートの中に出てくるAnneと同一人物で、もう一人の留学生Oliverと一緒に一人でオランダに語学研修に行った中西さんの面倒を見てくれました。非常に性格が穏やかで、何事にも積極的なAnneは、ただいま日本語修得のため奮闘中です。

外国人留学生たちが日本に来てから8週間になろうとしています。この8週間は、楽しい思い出、新しい友達との出会い、カルチャーショックなど、たくさんの出来事が詰まっています。最低限の日本語、「はい、そうです」、そして「駅はどこですか」も学び、入門クラスの学生たちは毎日楽しく勉強しています。もちろんこの間たくさんのことを学びましたが、みんなとの交流も夜まで続きました。下の写真はみんなで勉強を兼ねて大阪城に行った時のものです。

大阪城での “Study Meeting”

振袖姿のAnne～ホストファミリーと写真館で七五三の記念撮影

しかし楽しいことばかりではなく、勉強以外のところではいろいろな国から来ている留学生の間でお互いの文化の違いも発見しました。でも周りの人たちのサポートがあって、問題もなく楽しく過ごせることに感謝しています。また、みんなで京都、奈良、そして大阪の有名な繁華街心斎橋にも行きました。それぞれの街が日本の異なる一面を見せてくれます。例えば、京都のように、日本の歴史を教えてくれるようなお寺が点在しているところもあります。街を歩いていて、突然お寺があるというのは私にとってはとても不思議な感じがします。探さなくても、次から次にお寺が登場するのですから！

OGUのキャンパスでは、現代の日本を象徴するような日本人学生たちと出会えます。その学生たちとコミュニケーションをするためには、日本語が必要不可欠ですから、日本語のクラスでがんばって勉強しなければなりません。

日常生活はと言うと、一緒に暮らしているホストファミリーがサポートをしてくれます。大学までの行き方を教えてくれたり、ドイツのパンを売っている場所を教えてくれたり、外国人登録証の申請を手伝ってくれたりと、本当に日々いろいろなことを教えてくれます。でも一つだけホストファミリーにもできないことが。それはインフルエンザから私たちを守ることです。ここのところ、留学生たちが次から次に病気になり、学校を休んでいます。ヤクルト、アサヒビール、その他インフルエンザの予防になるようなことをしても、みんなが元気でいることは不可能でした。でも数人を除き、残りの学生たちは、どうにか元気です！

留学生のみなさん、来週末はもっと“風邪薬”を飲んで、また一緒に大阪城に行くのはどうでしょか？

ダンスワークショップ by Oliver Hamacher

フォンティス応用科学大学からの留学生のOliverは、ダンスのインストラクターで、有名アーティストのミュージックビデオに登場するほどのダンスの腕前を持っています。日本でも自分の技術を人のために役立てたいという彼の思いから、このワークショップが実現しました。今回参加したのは、なんと本学のチアリーダー！言葉の壁なんて関係ない。最初は慣れないラテンダンス特有の動きに戸惑っていましたが、そこは普段からトレーニングしている彼女たち！Oliverのダンスに魅せられて、自然に体が動き出し、楽しいワークショップになりました！

(M.S)

チアリーダーにダンス指導をするOliver

3. ホストファミリーの心がけ　Part 2「ルールについて」～寺村優子

各ご家庭のルール

ひと口に日本の家庭といっても、家の構造も違えば、家族構成やライフスタイル、性格や地域性なども違い、千差万別です。そのためOGUの国際センターは留学生にオリエンテーションや説明会などで一般的な注意事項を伝えています。さらに各家庭によりそれぞれのホストファミリー(以下HF)のやり方というものがあるので、留学生はそれに従うように言われているはずです。また国際センターは、HFへの説明会などでも、「家のルール、例えばお風呂の使い方や使ってもいい時間などを取り決めて学生に伝えてくださいね。」とおっしゃっています。各家庭のルールを取り決めるということを、きちんとやっておかないとトラブルのもととなります。

それぞれの家庭が違っていていいんです

国際センターが取り決めたルールさえ守っていれば、あとはHFの自由裁量です。「○○さんの所は留学生にお弁当を作ってくれている。」とか「○○さんの所は、門限なんてないんだって。」なんていう話を留学生から聞かされたら、心穏やかではいられない気持ちもわかります。でも、全く気にする必要ありません。「うちはうちのやり方があるから」と言っていいのです。

ルールには理由が必要

理由や根拠のないルールを一方的に押し付けられる生活。それは、異文化交流ではありません。うちは、ルールを伝えることに重点をおかずに、理由を説明するようにしています。

何度も繰り返しますが、家庭ごとに違うルールがあって良いと思います。トラブルの元となりがちなシャワーを例にすると、シャワーの時間が夜8時までというルールの家があったとします。シャワーの時間を何時に決めようと良いのです。ただ、なぜそうなのかと言う説明が必要なのです。

説明例1

「8時から9時は家族がお風呂に入るし、9時には子供を寝かしつけたい。バスルームが子供部屋に近くて、子供が寝付けないから、8時までにしてね。」

説明例2

「息子の部活のジャージだとか急いで乾かさないといけないものが毎日あって、浴室を乾燥機として使うから、8時までにしてね。」

このような説明が大切ではないかと思います。たいていの事は説明をすれば、納得してくれますし、留学生からの規制緩和のお願いが、常識の範囲で、家族も困らない程度であるならば譲歩しても良いでしょう。そういうことが、真の異文化交流だと思います。

中には、どうしてもお互いに譲れないということもあるかもしれません。それは、留学生とHFのライフスタイルなどが単に合わなかっただけの話で、誰かが悪かったというわけでもないと思います。きちんと話し合いをした上でどうしても問題が解決できない場合は、マッチングの変更を国際センターに相談してみましょう。どちらかが、一方的に我慢を強いられるというのは、お互いに良くないでしょう。合わないのは、どうしようもないことですから。

（次回「ルールについて2」に続きます）

プロフィール：1996年からホストファミリーを始める。これまで、アメリカ・ドイツ・フランス・オランダ・台湾からの留学生を

4. 日本語の先生紹介～増田良介先生

今回は、前号の福井美佐先生に続き、もう一人の専任教員である増田良介先生を紹介したいと思います。増田先生は2000年12月からOGUの国際交流プログラムで教えられています。最初の年は留学生が全部で6名しかいなかったそうですよ。今では考えられない少なさですね。

増田先生の大学時代の専攻は「梵語学梵文学」と言う聞きなれないものですが、サンスクリット文学を勉強されたそうです。そこから言語つながりの日本語教師の道へと進まれました。

今年度、増田先生が担当されている上級クラスには16名の学生がいますが、まれに見るレベルの高さで、6名がすでに日本語能力検定試験の1級を取得しています。日本語ができるだけでなく、日本に関する知識も驚くほどだとか。先日、お城が好きだという学生がいたので、国宝の城は4つしかないという話をしようとしたら、その学生はとっくに知っていて、全部行ったことがあったそうです。それも彼女はフィンランド人。ちなみにそれは、「松本城」、「犬山城」、「彦根城」、そして「姫路城」。みなさん、ご存知でしたか。私はまったく。。。

日本語教師になってよかったと思うのはどんな時ですかと質問したところ、「成長が目に見えるところ」と言う答えが返ってきました。先週話せなかったことが、今週は話せるようになった。先週書けなかったことが、今週は書けるようになった。成長しているなと感じた時に、教えることに楽しさを感じるそうです。

最後に、現在OGUにいる留学生へのメッセージ。「せっかくやるなら、楽しいことを見つけて、毎日を楽しんでください！」

(M.H.)

5. 国際センターニュース

2010-2011交換留学生募集

2010年度の交換留学生を募集します。出願書類の受付は来年1月12日から25日ですが、今からできることは準備を始めましょう。特に英語圏を希望する学生は、年内に語学基準を満たせるようにがんばってください。新しい募集要項は国際センターに用意してありますので、必要な学生は取りに来てください。

交換留学生選考までのスケジュール

□出願受付：2010年1月12日（火）～1月25日（月）
□選考試験(筆記)：2010年1月26日（火）あるいは27日（水）
　フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語のみ
□選考試験(面接)：2010年2月1日（月）～2月5日（金）
□合格発表：2010年3月初旬
　国際センター入口の掲示板に貼り出します。

OSAKA GAKUIN UNIVERSITY
OSAKA GAKUIN JUNIOR COLLEGE
大阪学院大学・大阪学院短期大学 国際センター
〒564-8511 吹田市岸部南二丁目 36番1号
Tel: 06-6381-8434
Fax: 06-6381-8499
Email: inoffice@ogu.ac.jp
http://www.osaka-gu.ac.jp/int_exchange/main.html